

報道関係各位

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

日本初、来館者が自ら「選ぶ」キオスク連動型 AI 展示ガイド 盛岡市遺跡の学び館で実運用を開始

— 生成 AI と独自のハイブリッド通信技術で、地方展示施設の人手不足・インバウンド対応を支援 —

盛岡市遺跡の学び館と岩手県立大学ソフトウェア情報学部・蔡大維教授の研究グループは、岩手県立大学地域協働研究の助成を受け、共同研究により開発した「キオスク連動型 AI 展示ガイドサービス」の実運用を開始しました。

この度、下記のとおりシステム運用取材とデモを行いますので、ぜひ取材いただき、別紙の内容を含めて報道いただきますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時 令和8年9月2日（水）10:00～11:30
- 2 場所 盛岡市遺跡の学び館（盛岡市本宮字荒屋 13-1）
- 3 内容 プレス向けのシステムの運用取材とデモ
- 4 対象者 プレス関係者

○ 本研究について

日本が観光立国を推進し、拡大するインバウンド需要を地方の活性化につなげるためには、各地域が持つ歴史・文化・自然の魅力を国内外へ分かりやすく伝える観光・展示コンテンツの充実が重要です。一方、地方の博物館・資料館では、人手不足や限られた運営予算の中で、年齢、知識、興味、使用言語の異なる多様な来館者に、それぞれに適した展示解説を提供することが求められており、サービスの高度化と現場負担の軽減を両立することが課題となっています。

本サービスでは、来館者自身が館内キオスクで自分に合った見学モードを選択し、その設定を携帯型ガイド端末へ自動転送します。これにより、受付スタッフによる端末ごとの設定作業を削減しながら、来館者は自分の興味や理解度、使用言語に合わせた展示ガイドやクイズを自由に利用できます。

また、研究グループが開発した**生成 AI 活用型の自動生成エージェント**により、展示施設がオリジナルの基本テキスト資料を用意すれば、年齢・理解レベル・言語に応じた文章、音声、字幕、画像、クイズなど、携帯型ガイド端末や展示学習に必要なデータ一式をほぼ自動的に生成できます。

さらに、キオスクと携帯型ガイド端末との通信には、研究グループが独自開発した**高速赤外線通信と高速無線通信を組み合わせたハイブリッド通信技術**を採用しています。ガイド端末をキオスクに置くだけで、見学モードの設定やガイド・クイズの利用履歴を数秒以内で送受信でき、子どもから高齢者まで誰でも簡単に操作できます。

本取り組みは、生成 AI によるデータ自動生成、来館者主導のモード選択、キオスクと携帯端末の自動連携、受付業務の省力化を一体化して実運用する点に新規性があります。公開情報を研究グループが調査した範囲では、来館者主導型のキオスク連動展示ガイドサービスの実運用は日本初であり、世界的にも類例の少ないシステムです。

※「日本初」は、公開されている国内事例を研究グループが調査した結果に基づくものです（2026年8月現在）。

システムの概要

1. 背景と課題

日本が観光立国を推進し、拡大するインバウンド需要を地方の活性化につなげるためには、東京や大阪などの大都市だけでなく、全国各地が持つ歴史、文化、自然などの魅力を、国内外の来訪者へ分かりやすく伝える観光・展示コンテンツの充実が重要である。博物館や資料館などの展示施設は、地域固有の歴史や文化を発信する重要な観光資源であり、その魅力を高めることは、地方への誘客や滞在価値の向上にもつながる。一方、地方の中小規模展示施設では、人手不足や限られた運営予算の中で、子どもから大人、外国人来館者まで、年齢、知識、興味、使用言語の異なる多様な利用者に、それぞれに適した展示解説を提供する必要がある。対象者や言語ごとに多くのコンテンツを制作・更新し、来館者ごとに受付でガイド端末を設定する従来の方法では、サービスを充実させるほど人的負担や運用コストが増える。この「サービスの高度化」と「現場負担の軽減」を両立することが、本研究が取り組む重要な課題である。

2. 来館者主導型のキオスク連動サービス

本システムでは、来館者が館内キオスクを自ら操作し、年齢層、理解レベル、興味、使用言語などに応じて、自分に合った見学モードを自由に選択する。キオスクで選択された設定情報は、その来館者が所持する携帯型ガイド端末へ自動的に転送される。来館者は端末を携帯して館内を見学し、各展示に対応した音声ガイド、画像、字幕、クイズなどを、自分に適した内容で利用することができる。端末の利用設定を受付スタッフではなく来館者自身が行うため、来館者が集中する時間帯でも窓口で一台ずつ設定する作業を削減できる。少人数で運営する施設でも職員の負担を増やすことなく、多様な来館者へ個別化された案内を提供できる。来館者側も、スタッフへ希望を伝えることなく、興味や理解度に合わせて見学方法を自由に選択できる。来館者サービスの個別化と施設運営の省力化を同時に実現することが、本システムの大きな特徴である。

3. 生成 AI 自動生成エージェントによるコンテンツ制作

本システムでは、研究グループが開発した生成 AI 活用型の自動生成エージェントを導入している。展示施設側は、展示内容の根拠となるオリジナルの基本テキスト資料を用意すれば、自動生成エージェントがその内容をもとに、対象年齢、理解レベル、使用言語などに応じたガイド文章を生成し、さらに音声、字幕、画像、クイズなど、携帯型ガイド端末で利用するコンテンツや展示学習に必要なデータ一式をほぼ自動的に生成する。すなわち、「一つの基本資料から、多様な来館者に対応するガイド・学習データ一式を自動的に展開する」仕組みであり、多言語化や年齢別コンテンツの制作・修正・追加に必要な人的負担を大幅に軽減できる。

4. 独自開発のハイブリッド通信技術

キオスクと携帯型ガイド端末との通信には、研究グループが独自開発した高速赤外線通信と高速無線通信を組み合わせた高性能ハイブリッド通信技術を採用している。来館者はガイド端末をキオスクに置くだけで通信でき、ケーブル接続や複雑な操作を必要としない。キオスクから端末へ見学モードの設定情報を送信するとともに、端末からキオスクへ館内で利用したガイドやクイズの履歴情報を送信するなど、双方向の高速通信を数秒以内で行うことができる。これにより、子どもから高齢者まで誰でも簡単に操作できる。

5. 本取り組みの新規性と実運用上の効果

本取り組みの新規性は、生成 AI エージェントによるガイド・学習データの自動生成、来館者主導の見学モード選択、キオスクと携帯端末間の自動連携、高速ワイヤレス通信、受付業務の省力化を一つのサービスとして統合し、実際の博物館運営に導入した点にある。公開されている国内事例を研究グループが調査した範囲では、来館者主導型のキオスク連動展示ガイドサービスの実運用は日本初であり、世界的にも類例の少ないシステムである。